

アマダイ通信NO. 129

(Tile fish network letter)

2019年 春一番吹く

知人・友人各位

7年も在籍した東大教養学部の寮三鷹寮の同窓会、東大三鷹クラブの事務局として隔月の講演会の告知を兼ね発行する通信。3千部を超えた辺りでメールを活用、千余通は未だに郵送するが、4千ほどはメール送信、経済的に大分楽に。調子に乗って「通信」だけでなく色々なお知らせまで大量にメール。プロバイダーのOCNから「他の客の迷惑になる」と発信を制限され、終には不通に。交渉？の末、一日300通に制限されるが、復活。gmailへは未だに不通。今や公共インフラと化したメール、理由も告げぬ制限や拒絶は通信・表現の自由という基本的な権利の侵害に当たらないか？何方かいい知恵を貸して下さい！

◎介護人も息抜きが必要・・・正月休みはショートステイ

妻が一夜にして5段階ある要介護の1から4に症状が急変、一人では寝返りも起き上がりも出来なくなる。近くの病院に2度入院しリハビリ、どうにか起き上がることは出来るようになる。室内は歩行器を使って移動、車椅子に座って食事したりテレビを観たり、本や新聞を読む。どうにか起き上がってもブラジャーのホックは掛けられない。ブラジャーなんか必要なの？というが、百円ショップで買った笛で呼ばれる。週2、3回ずつ慣れない手付きで掃除、洗濯、買い物も。毎朝食事をつくって一緒に食べ、BSでNHKの朝の連ドラ福ちゃんを観て、近くの娘のマンションに寄り、もう直ぐ4歳の孫息子と保育園に「同伴出勤」。昼食と夕食は見守りを兼ねて宅配弁当が食卓まで届き、ヘルパーさんが食事と服薬の補助で30分ずつ来てくれる。洗面とトイレは一人で大丈夫。通信が酔っ払って帰宅するとスヤスヤ寝息を立てている。

訪問リハビリと薬局の服薬指導、訪問介護がそれぞれ週一回、隔週に一回医師の訪問診療、週2回リハビリも兼ねデイサービスに通う。リハ明石という区立中学を中央区とUR(都市再生機構)が共同で再開発、中学校と介護施設、保育園などが併設された複合施設。同様の施設は区内に幾つもあり、URには仕事でも介護でも大変お世話になる。施設の送迎バスが朝夕マンションの駐車場まで来てくれる。通信が孫息子といそいそと同伴出勤後の、部屋と駐車場間の車椅子での移動はヘルパーさんが介助。デイサービスでは昼食があり、入浴も。介護保険制度なしでは老々介護は成り立たない。通信も働けず共倒れだ。

廊下や洗面、トイレ、風呂には手すりをつけ、入浴用の椅子をレンタル。これらの設置費用や介護ベッドなどのレンタル料金も介護保険を利用、本人負担は1割。随分助かる。かつて「介護の社会化」を叫んだ甲斐があった。週末、スキーもゴルフもない日は一緒に風呂に入り、妻の背中を流す。手摺や椅子があっても一人では入れない。三助させるためにT大に入れた訳ではない！墓場のオフクロは嘆きそうだが。悪いなりに生活パターンも確立、介護保険制度に助けられ、どうにか仕事と介護が両立できているが、泊りがけの出張やスキー、旅行は出来ない。年末から8日まで近くのケアハウスにショートステイして貰う。今回は年寄りが多くご飯が少なかったので多くして貰った、何でも手伝ってくれるので、断って自分でするようにした。自分でトイレ出来るのにオムツさせたり、食堂で裸でオシッコするようなお婆ちゃんもいなかったと、マズマズだったよう。

暮れの 30 日はホームコースの埼玉の小川カントリーで仲間と 2 組、打ち納め。カートに乗らず歩くゴルフ。そのまま関越道を北上、大晦日と元日は小 3 の孫娘と越後湯沢でスキーを楽しむ。2 日の明け方関越道を南下、小川カントリーで 2 組の打ち初め。買い出しや高齢者講習付の運転免許の更新、久し振り図書館で経済誌を読み、プールで泳ぐ。6 日東京駅 3 時ジャストの外房線特急に乗る。勝浦と鴨川で鈍行を乗り継ぎ、2 時間 15 分ほど「動く書齋」で読書、久し振り南房総の江見着。新幹線利用の越後湯沢と違い倍の時間がかかるが、本が読めれば苦にならない。東京駅のデパ地下で買った惣菜弁当で一杯やって潮騒が眠剤。介護騒動勃発以来久し振りの房総。自転車は錆だらけ。マンションの玄関ドアはギーギー。近くのホームセンター、コメリで自転車用の油買い注すとドアは泣き止むが、自転車はギアチェンジ出来ず。白神育ちの海彦はそれでも海岸通りを少し走り、浜辺に降りて磯の香りを嗅ぎ、潮騒を聴く。オーシャンビューの「書齋」で読書、少年の日々が蘇る。昼に隣町の太海の別荘で百姓三昧、中高同期の加賀君が獲れたての大根持って行くぞ！というが、まともな料理はしないので大根は断り、近くの漁師食堂金七で二人で房総族。🐟は昼酒も楽しむ。8 日から休みなしの老々介護の日々が始まる。

◎サイボーグ！？自分で人生の幕引き？

右下顎の奥歯が前後、上下にぐらつき、手の打ち用がないと、抜歯。時々歯茎が腫れていたが、うがいで殺菌すると腫れは引いても、空洞が広がっていたよう。右上の奥歯 2 本が義歯、今回右下奥歯が 1 本失われ、左下顎奥の 2 本がインプラント。多いのか？少ないのか？「残り物」を大事にしたい。ブリッジで義歯を使うか？インプラントを入れるか？そのままにしておくか？一番奥なので機能的にはそのままでもいいというが、どうするか？ヒアルロン酸を注射して消えた膝の痛みは再発しないが、あちこち体が悲鳴を上げる。

遙か昔、人類が日夜、他の動物と死ぬか生きるかの争いを繰り返していた頃、10 代で生殖、30 才くらいまで生きれば御の字だった。日本でも武士の時代は勿論最近まで、15 歳で元服（成人）、結婚するのが当たり前で、人生僅か 50 年と詠われた。それが今や日本では男女とも平均寿命が 80 才を超え、人生百年時代と言われるが、其々のパーツは百年間使用出来るように出来ていない。あちこち不具合が起きるのは当たり前。🐟も 50 代半ばでステージⅢb（殆ど治癒する見込みなし、余命半年）の大腸がんを手術、何故かもう直ぐ術後 20 年、完全治癒。その後は血圧が高いからと降圧剤を飲み、血糖値が高いからと「利尿剤」を飲む。毎晩酒を飲む生活習慣を止めれば血圧も血糖値も気にしなくていいと知りながら、酒税を払って国の財政に貢献、医療費で帳消し、製薬会社を喜ばせる。ぎっくり腰も何回かやり、腰に違和感を感じるとコルセット、時にロキソニンを飲み、膝痛で病院通いも。

あちこち一つつつ、命が失われていく。正月休み明け、一度脊柱を手術、これで大丈夫と勇んでテニスとゴルフを再開したら、更に悪化、年明け再手術、背中に金属を入れた病床の友人に電話。筋金入りになったので、リハビリが終わったらゴルフしようと約束。さすが相手があり、動きの激しいテニスは諦めるという。古くは義歯や義肢に始まり、今では股関節や膝の関節なども人工関節に置き換えるのは珍しいことではない。生来の機能が失われる一抹の寂しさ、滅び行く侘しさの一方、人工骨や人工臓器で、機能を延長、生き延びる不思議。サイボーグ化が進むと、いずれ最多の死因が、延命の拒否という広義の「自死」になる日がくるのだろうか！

◎あれから 50 年、全共闘安田講堂に還る！

通信で「全共闘 50 周年集会を！」と呟くと、松戸で在宅診療所を営む医師で千葉大学教授の堂垂君が応じ、編集企画会社経営、作家・翻訳家、選挙コンサルタントとマルチタレントの前田君他、団塊ネット以来の仲間も乗ってくれる。1月12日(土)安田講堂で「全共闘 50 周年集会」を、地下の中央食堂で懇親会を開催。全国に散って地域医療の担い手となった全共闘の仲間の医師達とそのスタッフが集う一大医療グループ、地域医療研究会の在宅医療部門、在宅医療研究会のプレ全国大会に相乗り、5 百名ほどの参加で盛会。

巨大な塊として時代の節目でいつも耳目を集め、社会に出てからは働き手として日本の高度成長を支えて来た全共闘世代も、今や高齢者。医療や介護、年金の受け手として、権利を主張するだけでなく、後世の負担にならないよう、世代として自らの始末をつけたい。永年培った知恵とネットワークを生かし、働ける者は働き、世代で相互扶助、後代の負荷を少なくする。介護も人手不足でヘルパーさんが介護する人を選ぶ時代になる、ヘルパーさんに嫌われないようにしないとなど、色々勉強にもなる。25 年前の「全共闘白書」の成功に倣い、「続・全共闘白書」も刊行予定。アンケートをメールや郵送、集計・分析、出版にこぎつけ、出版記念会へとつなげたい。この過程で早大のアンチ全共闘だった団塊世代の代表的論客寺島実郎氏などにも協力して頂き、団塊世代の「歴史的和解」を実現、この国の形、社会の在り方、国際的位置づけを巡り、次世代への橋渡しに出来ないか！

共産党系の医療集団民医連、新左翼・全共闘系の医療施設の団体が地域医療研究会。作家・タレントでもある諏訪中央病院の鎌田実名誉院長や民医連の医師も参加、会場から質問。過去にこだわりがみ合っている場合ではない、安倍改憲政権に対抗、国民の命と安全、暮らしを守るためには、団結する必要があると訴える。歴史的和解なるか？

◎ダボス会議でも富裕層への課税強化を！

朝日新聞によると 2018 年に世界で最も富裕な 26 人（米経済誌フォーブスの長者番付）の資産合計が、世界人口の下位半分（約 38 億人）の資産合計 1 兆 3700 億ドル（150 兆円、18 年 4~6 月期）とほぼ同じという。格差拡大に歯止めをかけるには富裕層への課税強化が必須と 1 月 22 日からスイス・ダボスで開かれた世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）で呼び掛られる。又、下位半分の資産合計は前年比で 11%減ったのに、超富裕層 1900 人の資産合計は 18 年 3 月までの 1 年間で 12%増えた。世界で最も富裕な上位 1%の資産に 0.5%課税すれば年 4 千億ドル（約 44 兆円）捻出出来、学校に行けない 2 億 6200 万人の子供の教育に加え、医療サービスの提供で 3300 万人の命を救うことが出来るという。

ソ連の解体、ベルリンの壁崩壊で「体制間」競争に片が付き、資本主義体制が地球全体を覆い、資本は労働者の反乱を気にせず、資本の論理を剥き出しに振る舞う。グローバル競争に勝つためにと、先進国が競って法人税を引き下げ、相続税や所得税の累進課税を緩和、金持優遇税制に変わる。情報化・IT 化の進展がグローバル競争を激化させ、労働者はグローバル競争に巻き込まれ、中間層の解体と格差の拡大が進む。

富裕層を代表する経済人や政治家が集まるダボス会議で、格差の拡大と富裕層への課税強化が問題となるのは、富裕層の間でも危機意識が浸透して来た証か？このままでは体制維持が危ない！と。万国の貧困層＝労働者は団結出来るのか？「人間は類的存在！」「一人は万人のために！万人は一人のために！」、半世紀前の全共闘のスローガンは蘇るのか？

◎バブルの崩壊が始まった・「メガトレンド 家計ファーストの経済学」

昨年 10 月以降の米国市場では株価も下がるが、より大きな動きは社債が売られ（利回りが上昇）、信用リスクが一気に表面化したことです。バブルは、負債を増やして資産を購入することによってもたらされますが、最後は、この負債を抱えた企業なり、個人が、それを返済できなくなることによって崩壊します。したがって、重要なのは、株価よりも信用リスクなのです。

中国の過大投資、過剰負債をもたらした工業化バブルは、逸早く崩壊過程に入っていて、日米欧の主要企業の中国ビジネスの悪化が、決算発表でこれを裏付けてきています。たぶん、このバブル崩壊のプロセスは 2 年から 3 年続くと思いますが、これから立ち直るのは大変なことになるとみています。前回リーマンショックの時は、米国と中国が金融、財政の双方で大きな刺激策を取りましたが、今回はこういった手段が残されていないからです。

その時は大きな構造改革、「企業ファースト」から「家計ファースト」に転換するしかない、「メガトレンド 家計ファーストの経済学」・消費する力が繁栄を左右する」（日本経済出版社）で、（株）中前経済研究所長の中前忠先輩（S33 年入寮）は論じます。興味のある方は是非、本書を手にして頂ければと思います。

小泉政権で始まった 20 年間のアメリカ流の「構造改革」。その間、賃金は下がり、雇用は不安定化、格差も拡大、家計は将来不安を強め、財布の紐を締める。本家アメリカでも、金融規制の緩和が深刻な金融危機を生み、イノベーションが起きて、生産性は低迷、家計の将来不安を和らげ、国民が安心して暮らせる雇用・賃金システム、社会保障制度、財政・税政、金融システムへと、経済社会の形を変えなければならない。次の大統領選に向けたサンダースやウォーレンなどの「民主社会主義」的主張はその反映だ。資本主義経済が続く限りバブルとその崩壊＝恐慌を永遠に繰り返す。過剰生産と需要のミスマッチを、かつては戦争による破壊と植民地の獲得によって解決しようとしたが、幸か不幸か核の傘の下で、人類の滅亡につながる地球規模の世界大戦という形で戦うことは難しい。

高校時代によく読んだスタインベックの「怒りの葡萄」に描かれている様に、昔は恐慌が到来すると庶民は塗炭の苦しみに突き落とされたものだが、生産性と生産力が上がり、多少生活に余裕が出来たからか、庶民の生活へのダメージは少なくなった。戦争のリスクが減り、全くのゼロからの再建ということも少なくなったからでもあろう。平和なくして人々の幸福な生活と社会の発展はない。

のニュージーランド紀行（Ⅲ）

（'16. 05. 01～08, トラピックス, 新・まるごとニュージーランド 8 日間）

⑤サザンアルプス

バスが止まり目が覚めると、漆黒の世界。世界遺産マウントクックの麓のホテルに到着。満天に星が輝き、澄んだ空気は冷く、旅装を解く間もなく食事。茎ワカメのサラダ、ホタテ、ムール貝、マス一匹のグリル、牛ステーキ、豚の角煮、鹿肉のステーキなどメニューも豊富。ビール小瓶が 7 ドル（1NZ\$≒90 円）、ジョッキが 8 ドル 50 セント。いい気分で白川夜船。昨年と同じ国際色豊かなバイキングの朝食会場、日本人も多い。玉子ご飯と納豆、味噌汁も楽しむ。

中々見られないという 3754m、ニュージーランド最高峰マウントクックが端正な姿をくっきりと現す。日本人ガイド三戸さんが案内、全員で Kea Point までハイキング。山腹をえぐって流れる幾つかの白い氷河を遠くに眺めながら、最もポピュラーだという、フッカー・バレーコースの石ころの山道を小1時間ほど歩く。フッカー氷河の氷河湖、ターミナル湖まで歩くと往復4時間のコースだという。そこまで行けばカナダのバンフで体験した様に、青みを帯びて光る、数百年、数千年を生きて流れる氷河の上を歩くことが出来たのだろうが、かつて氷河が削った深いU字谷が横たわるケアポイントの、削られた岩石が積もって出来た土堤、モレーンの上の展望台から雄大な「枯れ氷河」を見渡す。永年氷雪の重みで削られ、押し上げられて出来たモレーンの展望台には、人間が姿を現すはるか前から氷河の盛衰を眺めて来たであろう野兎の糞。

来た道をホテルに戻り、サザンアルプスの麓のリゾート地クイーンズタウンまで276キロ、4時間半のバス旅。眼下に昨夜の闇夜では目に入らなかった、白みがかった青緑色のプカキ湖の美しい眺めが広がる。タスマン氷河から溶け出す水が全て流れ込む、ミルキーブルーのきらめきは心を和ませる。岩や大地を削る氷河が溶け出した水に含まれるロックフラワーという成分が水中で浮遊、光を反射、鮮やかに発色するのだ。途中小さな飛行場、空からマウントクックを眺められる。何人か小さなプロペラ機に乗り遊覧飛行。高所恐怖症の●はバスで次の飛行場に先回りして待つ。水路も走る。近傍には六つの湖があり、標高差を利用して電気を起こし、水路は釣りにも利用される。マウントクックから車で1時間、世界有数のクライダースポット、マッケンジー盆地近くにあるオマラマの町のお土産屋併設の日本人経営の食堂で昼食。町の入口には大きな羊の像。1862年にアロウ川から金塊が発見され、ゴールドラッシュで湧き返ったというアロウタウンに立ち寄る。当時の街並みそのまま保存され、カフェ、博物館、郵便局などとして使われている。一獲千金の荒くれ男どもが集まった町にしては落ち着いたたたずまい。町を歩く人間は観光客ばかり。近くの小さな湖ヘイズ湖にもアルプスの山々が湖面に映え、美しい。

マオリ語で「ヒスイの湖」と呼ばれるワカチブ湖に面し、周囲をサザンアルプスに囲まれた高原の小さなリゾートタウン、クイーンズタウン。夏は避暑地、冬はスノーリゾートへの拠点としてにぎわう。「女王が住むのに相応しいほど美しい景観だ」というのが町名の由来の、落ち着いた街並み。ここもかつてゴールドラッシュで賑わった入植地としての歴史をもつ。ワカチブ湖は南北80キロの細長い、ニュージーランド第三の湖。標高は310mだが、最深400mあり、氷河から水が流れ込むため、水温12度と冷たい。街外れの高台のホテルに旅装を解き、バスに乗ってボブズヒルへ。鋭角なゴンドラに乗り標高790mの展望台に登る。夜景を眺めながら展望レストランで食事。客でごった返し、騒々しく、慌ただしい。生ビールジョッキ一杯8ドル50セント。ニュージーランドには400か所のゴルフ場があり、道中にあったパブリックのゴルフ場はセルフで、ワンプレー10ドル。人口密度が低く、土地が安いとゴルフのプレーフィーは安いが、人手のかかる飲食サービスは高い。

⑥南半球でもフィヨルド

7時半にホテル出発、片道307キロ、6時間、フィヨルドランドの見どころ、ミルフォード・サウンド往復。日本人ガイドのシズカさんが一緒。クイーンズタウンはオークランドより物価が高い、特に住宅は高く、ジャックスポイントでは一軒1億円以上もし若者が

家庭を持ってないという。借りると週3千ドルもするので、独身でグループを組み10人ほどで借りる。シェアメイトが誰かわからない。彼女はベッドルームを女友達と共有、一週160ドル払うという。水道は安い、冬の光熱費が800ドルと高い。一般家庭は暖炉が多く、スーパーで薪を売っている。車は70%が中古、10年は乗るといふ。町中は制限速度80キロだが、酒気帯び運転はOK、高速はオークランドとクライストチャーチだけという。人口密度が低いと高速は不要なのだ。街を抜けると、牧場では朝から羊が草を食む。住宅難でホームレスという訳ではないだろうが、一日中放し飼いでいふ。南米原産のアルパカもいる。

氷河に海水が入り込んで出来た深い入江がフィヨルド。北半球のスカンディナヴィア半島だけではない、南半球のニュージーランドにも美しいフィヨルドが広がる。フィヨルドランドの入口、342平方キロと南島一、ニュージーランドで2位の大きさを誇るテアナウ湖に立ち寄る。ここからミルフォード・サウンドまで119kmは険しい山肌を縫って進む山岳道路。深いブナの森を抜けると小さな湖、ミラー湖。鏡の様に周囲の山が映り込んで見える。周囲は次第に険しさを増し、フィヨルドならではのU字谷と切り立った岩肌が眼前に迫ると、ダーラン山脈を貫くホームートネルの入口。18年にも及ぶ難工事の末、1953年に完成した1219mのトンネル。かなり急なトンネルを抜けてしばらく下った所にザ・キャズムがある。滝までの、一周20分ほどの遊歩道から急流による侵食で丸く削られた奇岩の連なる景色を楽しむ。年間降水量7500mmという世界有数の多雨と急峻な山肌の賜物。多雨のもたらすシダと苔の緑、急流の砕け落ちる白と淵の碧のコントラストも綺麗だ。

山道を降り切るとフィヨルドランドで最も人気の見所の一つ、ミルフォード・サウンド。サウンドとは入江、14のフィヨルドの最北端。入江に沿う道はなく、タスマン海まで1時間40分の船旅。温帯多雨林帯に位置、氷河によって垂直に削り取られた山々が千m以上の高さから海に落ち込み、断崖から流れ落ちる滝が幾つも並ぶ様は幻想的でもあり、壮観でもある。海面よりそそり立つ山としては一番高い、1710mのマイター・ピーク、その対岸のライオンが座っているように見え、ライオン岩と呼ばれるキンバレー山。その左隣の象の頭に似たエレファント岩。象の鼻は146mも落下するスターリン滝。シール・ロックでは2頭のアザラシが日向ぼっこ。一時乱獲され絶滅しかけたが、今は手厚く保護され数が増えているという。タスマン海との境で引き返し、バスでクイーンズタウンに戻る。(続く)

◎大阪開催！東大三鷹クラブ第143回定例懇談会

・ ・ 三鷹国際学生宿舎の思い出と相続法改正

今回は三鷹寮が「東大三鷹国際学生宿舎」へと姿・形を変えてから2期目入寮の久米知之弁護士(平成6年入寮、東大寺学園)に、「三鷹国際学生宿舎の思い出と相続法改正」についてお話して頂きます。

今年1969年1月18・19日の東大安田講堂攻防戦から50周年、東大全共闘のメンバーでその前衛にいたものとしては感慨深い。闘争の最中、三鷹寮のど真ん中を「30メートル道路」(現在の東八道路)が貫通するという計画が持ち上がる。折からベトナム民族解放闘争にアメリカが介入、フランスに代わって前面に出、北爆開始。戦火は隣国のカンボジアにまで広がる。60年代後半、ベトナム反戦闘争が大きくなり、世界中で若者のレジスタンスが火を噴く。日本でも東大・日大闘争を頂点に盛り上がった大学闘争とベトナム反戦・

70年日米安保条約改定反対闘争が連動、騒然となる。今なぜこんな広い道路をつくるのか？米軍基地のある福生を通り八王子までつながる！いざという時は軍用滑走路になるのではないか？寮生は「軍事道路反対！」を叫ぶ。それでも道路は着々整備されるが、三鷹寮の部分だけが未開通のまま長らく放置される。

それから4半世紀、大学と国は寮の敷地の半分を三鷹市に売り、その金で三鷹寮を建て替える。かつての広い敷地の半分、グラウンドは東八道路と公園に姿を変え、残った半分の敷地に三鷹寮が「東大三鷹国際学生宿舎」として再生。寮を学生の自治に任せるととんでもないことになる！東大闘争の「反省」から、寮生が徒党を組み悪さをすることがないよう、旧制高校以来の伝統を継ぐ定員300人の自治寮は、学生が集まる食堂も風呂もない、定員600人、3分の1が女子と留学生の、個室の「国際学生宿舎」に建て替えられる。

新制三鷹寮も誕生以来4半世紀、初期の寮生も40歳代、社会の中核として活躍、霞が関の役所に入った寮友も本省の課長クラスで頑張る。これからは彼らの時代、日本の未来は彼らの双肩にかかる。そんな期待を込め、新制2期生の久米さんに、かつての「寮」とは様変わりした「宿舎」の思い出と、今回大改正された相続法について話して頂きます。

60年代後半、寮委員長として若干やり過ぎ？後輩に不自由な寮生活を送らせることになったという多少の反省も踏まえ、縦横の交流を少しでも図るべく、先頭で「宿舎」生の皆さんと長らく付き合ってきた小生が、案内の筆を執らせて頂きました。(1966年入寮干場)

日時：平成31年3月19日(火) 18時30分～21時(開場 18時)

場所：中央電気倶楽部本館311号室(大阪市北区堂島浜2-1-25 電話06-6345-6351(代))

会費：6000円(会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)

申込先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email : tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎ジョシア君囲む会・個室居酒屋で豚しゃぶを楽しむ

師走の8日(土)、個室会席北大路の姉妹店、個室居酒屋番屋でイギリスからの元交換留学生ジョシア君を囲む会。うどん付豚しゃぶがメイン、付出し、新鮮な刺身に焼き物、サラダ、揚げ物など8品、飲み放題付、手頃な価格で和食を楽しむ。

彼は安全・安心・便利な日本と日本の文化が大好きで、今回が8度目の来日。56歳の母親と一緒に来年も日本に来るといふ。来年はジョシアママの歓迎会か！一度ロンドンに帰って大学を卒業、人の命を病、とりわけガンから救いたいと医学部に入り直し修行中。家庭医(総合医)ではなく、大きな病院の勤務医になりたい、日本と違い学生時代でも人形相手だけでなく、実際に患者にカテーテルを入れたり医療行為をすることが多く緊張するが、勉強になるという。日本でスキーして骨折した鎖骨を出し、カテーテルを入れる仕事も。因みにイギリスはなだらかな丘ばかりで、山がなくスキーが出来ない。

ジョシア君、やはり元AIKOM生(駒場の交換留学生)のChristineさんにも声を掛け、一緒に参加。AIKOM生のネットワークがあるよう。シドニー大学からの交換留学生の彼女は大学とAIKOM生の先輩、我が歌娘サラ・オレインと一度会ったことがあるという。オーストラリアで就職したが、日本が大好きで今は日本で働く。🐼がオーストラリアは豊かで、ツアー中シドニーでは二人しかホームレスをみかけなかったという、怪訝そうな顔。住んでいる人間とツアー客では認識に違い。サラを誘って一緒に食事でもしたい。

飲み放題付き 5 千円のコース料理が 14 人で学生は無料。年寄りと学生だけでなく、若い社会人も参加。5 千円会費の若い社会人が 3 人、1 万円会費と 2 万円会費のベテランが各 1 人、●が残りを負担。女子も 2 名、グローバルなネットワークが出来つつあるのは嬉しい。20 数年間の●のネットワーク活動も多少貢献しているとすれば、尚嬉しい。ジョシア君も Christine さんも日本語が堪能で、ジョシア君が、自分達が日本語を話してるのだから、日本人も英語で話そう！と提案、皆が英語で話始めると、●はチンプンカンプン。人生百年時代、今からでも遅くない。あらためて英会話を学ぶべきか？

参加者は、Joshua Lee (2012・AIKOM・イギリス)、Christine (2012・AIKOM・オーストラリア・シドニー大学)、竹内 碧 (2016・理Ⅱ 薬学部薬学科・高知・高知学芸)、張 舟杰 (2017・工学系研究科化学生命工学・中国)、遠藤 菜々子 (2017・文Ⅲ 医学部健康総合科学科・静岡・浜松西)、岡 優丞 (2017・理Ⅱ 理学部数学科内定・島根・出雲)、北浜 駿太 (2017・理Ⅰ 理学部物理学科・岡山・倉敷天城)、高橋 俊広 (2017・文Ⅱ 経済学部内定・山梨・甲府南)、橋本 涼太郎 (2018・文Ⅱ・大分・大分豊府)、OB が田中 翔 (2011 (院)・理学系研究科地球惑星科学専攻・東京・科学技術)、田中 克幸 (2003・理Ⅱ 農学部応用生命科学科・福岡・東筑)、● (1966・文Ⅰ 法学部・秋田・能代)、辰 紘 (1965・文Ⅰ 教養学部教養学科国際関係論・大阪・三国丘)、平賀 俊行 (1951・文Ⅰ・北海道・稚内)。

◎「カキ小屋飛梅」で忘年会

8 日の交流会に参加出来なかった寮生のために、暮れの 28 日 (金) 神田駅西口商店会の元日大全共闘の仲間が経営する居酒屋「かき小屋飛梅」で忘年会。かきとホヤ、海鮮、牡蠣鍋のコースを楽しむ。参加者は、●の他に高田 夏輝 (2015・文Ⅲ・愛知・岡崎)、横字 史年 (2015・文Ⅲ・愛知・岡崎)、片岡 丈人 (2016・文Ⅱ 経済学部・青森・弘前)、神長 憲悟 (2016・文Ⅲ 教養学部・茨城・水戸第一)、柏田 祐樹 (2017 (院)・理学系研究科天文学専攻・埼玉・栄東)、遠藤 菜々子 (2017・文Ⅲ 医学部健康総合科学科・静岡・浜松西)、岡 優丞 (2017・理Ⅱ 理学部数学科内定・島根・出雲)、北浜 駿太 (2017・理Ⅰ 理学部物理学科・岡山・倉敷天城)、橋本 信歩 (2017・理Ⅰ 理学部情報科学科・大阪・清風南海)、ラーリック 寿里晏 (2017・理Ⅱ・茨城・水城)、Tianyuan Luo (2018 (院)・情報理工学系研究科知能機械情報学・中国・ドイツ)、Valentina Jay Geraci (2018 (院)・工学系研究科建築学専攻・イタリア)、Shlok Mohta (2018 (院)・工学系研究科電気系工学専攻・インド)、王 海其 (2018・文Ⅲ)、OB が國枝 明弘【春風亭昇吉】(2003・文Ⅱ 経済・岡山・城東)、辰 紘 (1965・文Ⅰ 教養学部教養学科国際関係論・大阪・三国丘)。

◎求む「赤光」！（結びに代えて）

出版業界で長らく働いてきた、60 年安保世代の同学の学生運動の先輩船橋治さんから、100 号ほど出たかつての ML 派の機関紙「赤光」の復刻版を作ろうと探しているが、中々集まらない、「●通信」で呼びかけてくれとのこと。党派の人間にとって機関紙の販売はオルグ（組織拡大）の要。オルグは党派の営業。毎号 2 百部は売った●は優秀な営業マン！？営業のアウトソーシングともいうべき現在の営業顧問業の素養はその頃培われたか？売り過ぎて？自分の手元には 1 部も残っていない！お持ちの方は是非ご連絡を！再見！